

## [ 旭川医科大学開学30周年記念フォーラム ]

## 「旭川医科大学30年の光跡」

司会 千葉 茂\*・野村 紀子\*\*

このフォーラムは、平成15年5月から、久保良彦前学長と、その後引き継がれた八竹 直学長をはじめとする開学30周年記念行事実行委員会によって企画・準備され、同年11月5日の開学記念日に開催されたものである。私どもは、企画・準備の段階からこのフォーラムの司会の任を仰せつかった。本フォーラムの内容と形式については、われわれ司会者に一任されたが、フォーラムのパネリストは本学医学部医学科卒業生で構成するように依頼された。

最初に、写真1、約30年前のキャンパス予定地をご覧いただきたい。広野の中の看板が、道民の長年の悲願であった国立医科大学の新設がこの旭川の地で成就することになったことを力強く示している。そして昭和48年（1973年）11月5日、本フォーラムからちょうど30年前に、戦後初めての国立単科医科大学として本学が誕生するとともに、第1期生が入学したわけである。本学の創設に至るまでの国や道、関連諸団体のご尽力が並大抵のものでなかったことは、当時の



写真1 約30年前のキャンパス予定地

\*旭川医科大学医学部医学科同窓会長、同大医学部精神医学講座教授 \*\*旭川医科大学医学部看護学講座教授

関連資料から読み取ることができる。まことに身の引き締まる思いがする。

写真2は、現在のキャンパスである。本学は、看護学科棟を含む広大な姿に発展し、写真1と比較すると、まさに隔世の感がある。本学附属病院も、装いを新たにしながら、新時代に見合う医療、教育、研究を追求している。しかし一方で、開学30周年というひとつの節目を迎えたこの時期に、また、国立大学法人として生まれ変わったこの時期に、本学は、その足跡を振り返り、現状を評価・分析することによって、新たな大学の未来を創り上げなければならない。

このフォーラムでは、大きく4つの領域にフォーカ

スをあてた。すなわち、第1に地域医療（第1期生 牧野憲一氏）、第2に大学附属病院（第2期生 廣川博之氏）、第3に大学教育（第6期生 森 千里氏）、そして第4に行政（第21期生 中谷祐貴子氏）である。このたび、それぞれのパネリストに講演内容をご執筆いただいたので是非ご一読いただきたい。

フォーラムでは、母校を思う気持ちに裏打ちされた各パネリストの講演に対して、会場から大きな拍手が送られた。ご多忙にもかかわらず講演をご快諾いただいたパネリストの皆様には、司会者としてこの場をお借りして深謝申し上げる。



写真2 現在のキャンパス